資料－２

いしかわの森づくり検討委員会現地調査結果

１　日時　　平成１６年８月２５日（水）　9:00～14:50
２　場所　　白峰村字白峰地内
３　出席状況　　出席委員　９名（全委員１３名）、谷本県知事

４　概要

（１）現地調査事前説明会（白山ｾﾐﾅｰﾊｳｽ望岳苑）
①県内の手入れ不足林等の状況について、ビデオ放映
②水源かん養機能を育む森林土壌について、説明

（２）森林・林業の取り組み事例について
水源地域における林業について（杉田 長太郎　氏）
・森林の経済価値が減少しても、森林の果たす役割は重要と考え、親から引き継いだ山の整備に努めてきた。
・当地域が手取川ダムの上流域にあり、県民の重要な水がめになっていることから、地元の山林所有者の関心も高いが、森林資源の育成にはボランティア活動など、下流域の住民の関心を一層高める必要がある。
・自分の山は自分で整備するという意識改革に努め、自分で整備すると少しでも収益が上がる施策が必要である。
・林業本来の木材生産で収益をあげながら、森林を育てていくことを繰り返すことによって、永久に山の緑を保っていきたい。

（３）手入れ不足林調査（白峰村西山地区）
・間伐等の手入れを行っていない森林の現況と土壌の状態について調査。

（４）手入れ林調査（白峰村そぶ池地区）
・間伐等の手入れを行った森林の現況と土壌の状態について調査。

５　主な発言内容
・安い外材の柱材（２，２００円/本）に対応するため、３０～４０年生のスギ柱材を２，３００円/本で売っているが、この場合、立木価格を０（タダ）にしないと採算がとれない状態である。
・国内産業を保護しようとしているのに、農林水産物で木材だけが関税がない。

・４０坪２，０００万円の住宅に占める柱材は、２０万円程度である。
・近年、中国では北洋材等の木材輸入量が増えてきている。
・加賀地区で、木材流通拠点施設ができたが、能登地区では、製材等の各施設がまとまっていない。
・森林は、木材生産という経済林としての機能だけでなく、この機能に勝るとも劣らない水源かん養、国土保全等の公益的機能を有している。
・経済林でありながら、所有者が林業経営の意欲を失ったことにより、森林整備が遅れ、公益的機能が低下している森林が増えてきている。
・森林所有者の意向を踏まえながら、森林の公益的機能を維持していく仕組みを今後、検討委員会で考えていかなければならない。
・現地調査を実施して、森林の公益的機能の重要性について、改めて認識した。

現地調査（８月２５日）のまとめ

区　分	手入れ林 （白峰村そぶ池地区）	手入れ不足林 （白峰村西山地区）
これまでの手入れ状況	国道に隣接した森林で、植林後の下刈り作業及び枝打ちや除間伐作業は適度に行われ、最近では不良木等の間伐作業が行われている。	林道から約３００ｍ離れている森林で、植林後の下刈り作業までは行われていたようであるが、その後の枝打ちや除間伐作業が行われていない。
林地の状況	林内は比較的明るく、下草等も繁茂し、かん木類に加えてトチノキなどの高木性の広葉樹も育ちつつある。	林内は薄暗く下草が少ない状態でモヤシ状の木が多く、下草の生えていない急斜面は土壌の流出もみられる状況
経営の可能性	適度な抜き伐りを行い、８０年生以上の長伐期施業を指向することで経営可能と見込まれる。	既に40年経過しており、今後手入れをしても、木材として収入を上げることはほとんど期待できない。
今後予想される森林の状況	林業経営を通じて、将来的にも公益的機能の発揮が期待される。	既存の経済行為を前提とした制度では整備が期待できず、このまま手入れされずに土壌流出等の荒廃が進み、森林機能のさらなる低下が懸念される。
備　考		